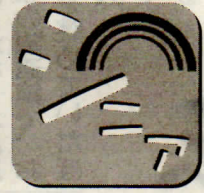


■ 孫の話の聞き役に



つたのは「子どもの話や遊び相手をすることだった。」

青山学院大教授の小林紀子さん(幼児教育)は、「話に興味を持ってもらえると、孫は『一人前と認めてもらえた』と自信を持って、前向きになる」と話す。

「話すことは、言葉の使い方や身につける練習にもなる。親子の時間に余裕があることが多い。親より祖父が、時間をかけて話を聞いてやることは孫の成長にとっ

て大切なことです」 どうすれば話を上手に聞いてやれるのか。孫育て講座を開催

しているNPO法人「エガリテ大手前」(東京)代表の古久保俊嗣さんは、「子どもは、自分の話に大人が反応すると喜ぶので、大げさなくらいの相づちや表情で反応してやりましょう」とアドバイスする。

最近読んだ絵本の筋を話し始めた時には、目を見張って「それからどうなったの!」と興味深そうに続きを催促し、面白い場面では笑うようにする。アニメの話を読んでも、「おじいちゃん知らないんだ」と話を遮るのではなく、身を乗り出して「かっこよさそうだなあ!」ど

興味、共感示し続き促す

小学校低学年ぐらいまでの子どもの話は、長かったり断片的だったりすることが多い。だが、子どもにとって話を聞いてもらうことは情緒の安定につながり、「コミュニケーション力」を身につけるにも役立つ。人生経験の豊富な祖父母は、そんな子どもの聞き役として適任だ。上手な聞き方を専門家に聞いた。内閣府が昨秋、全国3000人を対象に行った子育てに関する意識調査では、「祖父母に期待する手助け」として最も多か

て大切なことです」

どうすれば話を上手に聞いてやれるのか。孫育て講座を開催

● 孫の話を上手に聞く方法



(古久保さんの話を基に作成)

んな色の服を着ているの?」と興味があることを示す。友達に意地悪をされたことを話した時には、「つらかったでしょう」とやさしくいたわってやる。

祖父母が興味を持ったり共感してくれたりしたことで、孫は喜ぶ。そして、さらに詳しく話したり上手に説明しようと工夫したりするようになるという。

話が長くなって切り上げたい時には、孫が話を終えて満足したり、話の材料が尽きたりした時、ほかの遊びに誘うなどして子どもが気持ちを切り替えられ

るよう仕向ける。

NPO法人「孫育て・ニッポン」(東京)理事長の榎田明子さんは、「両親は仕事や家事で忙しいので、子どもの話をゆっくりと聞いてやる時間を取りにくい。そのため、孫が祖父母と話す時に求めているのは、アドバイスや説教ではなく、優しく、時間をかけて話を聞いてもらうこと」と指摘する。

孫が「けんかした」と話した時には、「けんかなんてダメ!」とすぐに叱るのではなく、「そうだったんだ」と相づちを打ち、

最後まで優しく話を聞くようにする。

「うるせえ」などと乱暴な言葉を使った時も、すぐに叱ると、「話しづらい」と思われる。「おじいちゃん、乱暴な言葉は好きじゃないな」「そんな言葉は聞きたくないな」とたしなめるくらいにとどめた方がいいという。

高齢になると、話を聞き取ったり理解したりするスピードが落ち、孫の話に追いつけないこともある。小林さんは、「話がわからなかったら素直に聞き返したり、よくわからなくても『そうなの、そうなの』と相づちを打ってあげたりして、祖父母ならではのゆったりとした時間を楽しませてあげればいい」と話している。